

# 令和元年度 事業報告

## 法人本部

## 子育て支援事業部門

波除学園  
安治川保育園  
田中保育所  
西保育園  
アフタースクールKIDS  
病児保育室  
つどいの広場  
藤白台育成室

## 高齢者事業部門

ケアハウスなみよけ  
市岡東地域 総合相談窓口  
居宅介護支援事業所  
デイサービスセンターさくら  
ホームヘルプセンターさくら

社会福祉法人 波除福祉会

# 令和元年度 法人本部事業報告

## 1. 令和元年度 法人重点事項の取り組み

### (1) 法人運営体制の強化

「施設の運営」から「組織的な経営」への組織変革に向けた取り組みを進めた。各会議や打ち合わせを通じて情報共有を密にして、新たな課題については調査、対応を積極的に行ない経営の自立性を高めた。専門家のアドバイスやチェックを受けながら就業規則等を含む規約の見直しを行ない、法人運営・施設運営の透明性の向上に取り組んだ。

### (2) 事業部の円滑な運営と連携の強化

本部と施設長等で構成する運営会議では、毎月の事業実績報告、当面の事業計画、職員状況など法人事業全体を把握し、課題検討をすることで共通認識を深めることができた。事業運営にあたっては、各施設・事業の数値目標・事業収支目標を設定し、各施設・事業の責任者が目的意識を持って事業運営に関わるようにした。

### (3) 法人全体の経営分析

月次決算会議において事業所の業績を把握し、財務管理や経営課題を検討する場とした。しかしながら現状は単なる数字の報告や事業の連絡調整に終わってしまっている。今後はしっかりと経営分析を行ない、問題と課題の共有化を図り、事業運営の効率化を進めていきたい。

### (4) 人材育成と人材確保

人材育成の面では理事長研修・各部門の職員研修・期中面談等を通して職員の資質向上、スキルアップを図った。受講後に職場内で研修報告を行ない、実践に繋がれるようフォローを実施した。

人材の確保では、介護スタッフや保育士など雇用環境が厳しくなる中で、一般求人募集に加え人材派遣や人材紹介を活用して職員確保に努めた。次年度は、新卒者の採用に向け早目の取り組みを開始する。採用者確保と同時にスタッフの職場定着への取組みも継続課題とする。

## 2. 法人運営

### (1) 監事監査の実施

令和元年度事業報告及び決算書諸表の監査実施（令和元年5月23日）

### (2) 評議員会開催状況

開催年月日	審議内容及び報告事項	審議結果
定時評議員会 R1. 6. 19 13:00~13:45	報告事項 第1号 平成30年度監事監査結果報告 第2号 平成30年度事業報告 決議事項	承認 承認
評議員10名 理事3名 監事2名	第1号 平成30年度計算書類及び財産目録の承認 第2号 理事10名の選任 第3号 監事2名の選任	可決 可決 可決
臨時評議員会 R2. 3. 26 13:00~13:35	報告事項 第1号 社会福祉法人淳風会との合併の検討	承認

## (3) 理事会開催状況

開催年月日	審議及び報告事項	審議結果
第1回理事会 R1. 5. 31 13:00～16:40  理事10名 監事2名	報告事項 第1号 平成30年度監事監査結果報告 第2号 代表理事の職務執行状況 審議事項 第1号 平成30年度事業報告 第2号 平成29年度決算 第3号 理事・監事の選任 第4号 定時評議員会招集 第5号 給与規程の一部変更（資格手当額変更） 第6号 経理規程の一部変更（拠点区分名称変更） 第7号 保育士宿舍借上げ管理規程（借上げ要件追加）	承認 承認  可決 可決 可決 可決 可決 可決
第2回理事会 R1. 6. 19 15:00～15:15 理事9名監事2名	審議事項 第1号 理事長選定	可決
第3回理事会 R1. 8. 29 15:00～16:45  理事9名 監事2名	報告事項 第1号 令和元年度第1四半期事業活動状況 第2号 令和元年度第1四半期決算 第3号 代表理事の職務執行状況 第4号 波除福祉会・淳風会との合併検討進捗状況 第5号 認定こども園波除学園分園の今後	承認 承認 承認 承認 承認
第4回理事会 （書面決議） R1. 10. 28	審議事項 第1号 施設長の選任	可決
第5回理事会 R1. 11. 28 15:00～17:10  理事9名 監事2名	報告事項 第1号 令和元年度第2四半期事業活動状況 第2号 令和元年度第2四半期決算 第3号 代表理事の職務執行状況 第4号 波除福祉会・淳風会との合併検討進捗状況 第5号 認定こども園波除学園分園の現状 第6号 吹田市東留守家庭児童育成室運営事業者公募	承認 承認 承認 承認 承認 承認
第6回理事会 R2. 2. 27 15:00～16:30  理事10名 監事1名	審議事項 第1号 令和元年度補正予算（案） 第2号 評議員会招集 報告事項 第1号 令和元年度第3四半期事業活動状況 第2号 令和元年度第3四半期決算 第3号 代表理事の職務執行状況 第4号 波除福祉会・淳風会との合併検討進捗状況 第5号 吹田市東留守家庭児童育成室運営事業者公募不採択 第6号 大阪市公立保育所民間移管施設 西保育園	可決 可決  承認 承認 承認 承認 承認
第7回理事会 R2. 3. 26 15:00～16:00  理事10名 監事1名	審議事項 第1号 令和2年度事業計画 第2号 令和2年度決算 第3号 社会福祉法人淳風会との合併契約承認 第4号 臨時評議員会招集 第5号 就業規則の一部変更（同一労働・同一賃金への対応） 第6号 経理規程の一部変更（拠点区分名称変更） 第7号 施設長の選任	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

#### (4) 登記事項

登記の事由	登記申完了日	登記すべき事項
理事長の選定	令和元年6月26日	令和元年6月19日重任
資産の総額変更	令和元年6月26日	資産総額 金 1,087,044,947 円

#### (5) 苦情対応

苦情受付担当者・苦情解決責任者により、その都度適切な対応と改善に努め、苦情検討委員会等において周知統一を図った。苦情に対しては初期対応を実践しご本人、ご家族への誠意ある対応に努めた。

#### 【苦情解決第三者委員会開催】

開催日/出席者数	内容
第1回 苦情解決第三者委員会 R1.8.7 13:00~14:30  第三者委員 3名 法人職員 8名	苦情件数報告(H31.3~R1.7) ・子育て支援事業部 12件 ・高齢者事業部 16件 事例検討 ・ケアハウスの生活の中で生じた苦情・要望 ・保育園のお帳面への記載ミスに対する苦情
第2回 苦情解決第三者委員会 R2.2.27 13:00~14:30  第三者委員 2名 法人職員 9名	苦情件数報告(R1.8~R2.2) ・子育て支援事業部 13件 ・高齢者事業部 14件 事例検討 ・ケアマネジャーの説明不足により生じた苦情 ・安治川保育園運動会の騒音に対する苦情

### 3. 労務関係

#### (1) 最低賃金の改訂

大阪府最低賃金の改訂により期間契約職員の最低時給単価を令和元年10月1日から936円を964円に変更した。

#### (2) 福利厚生

項目	実施日等	対象
定期健康診断	R.1.9/2	198名
ストレスチェック	R1.10/21	198名
インフルエンザ予防接種	R.11/10~12/20	150名
忘年会	R.12/20	137名
永年勤続表彰	R.12/20	8名

### 4. 防災関係

火災等の人的災害の予防、地震等の自然災害時の被害軽減を図ることを目的に自衛消防訓練を事業計画通り実施した。また、事業部ごとに、防災委員会や防災計画に沿った避難訓練等を実施、職員の防災意識の向上を図った。

震災時における事業継続計画（BCP）を活用し、災害時における個々の対応力の向上や体制整備の強化に努めている。

### 5. 施設整備・保守関係

主な整備（10万円以上）

施設名	内容	工事日	価格
波除福祉会館	屋上消火栓配管改修工事	5/26	167,600円
ケアハウス	流し台取替工事	6/7	210,000円

波除福社会館	空調室内機分解洗浄作業	5/1～6/16	927,720 円
波除福社会館	厨房給気ダクト清掃・ダンパー取替	6/15・6/22	586,224 円
デイサービス	入浴用車椅子修理	7/12	129,600 円
波除福社会館	自家発電設備整備改修	9/18	475,200 円
安治川・田中・分園	空調室内機分解清掃作業	8/14～8/30	355,320 円
ケアハウス	ろ過ポンプモーター取替	10/19	341,000 円
波除福社会館	自家発電設備整備改修	11/5	198,000 円
波除福社会館	非常用照明装置取替	11/17	340,000 円
ケアハウス	洗面台電気温水器取替	11/27	168,300 円
安治川保育園	乳児トイレ改修工事	10/28～11/15	4,860,000 円
波除福社会館	非常用照明器具取替	2/2・2/4	940,000 円

## 6. 職員配置状況

令和2年3月31日現在

	子育て支援	高齢者事業	総務	合計
正職員	67	17	3	87
期間契約	90	40	1	131
嘱託職員	1	1	1	3
派遣職員	1	0	0	1
合計	159	58	5	222

## 7. 裁判関係

- ・大阪地方裁判所 平成30年（ワ）賃料増額確認等請求事件  
令和元年10月25日判決言渡し  
①地代確定請求（1か月84万8000円）②未払地代請求（902万3174円）  
いずれも棄却され、当方が全面勝訴
- ・令和元年11月7日付で原告（経王寺）はこれを控訴  
大阪高等裁判所 令和2年6月5日判決言渡り期日

## 8. 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全国に緊急事態宣言が発令されており、各施設・事業所において種々の取り組みを実施している。大阪市や厚生労働省通知の事業運営「社会福祉施設等における感染防止に向けた対応」に沿って事業運営を進め、職員の健康管理ならびに行動の自粛、保育施設や在宅介護の利用自粛の協力依頼、ケアハウスの面会を制限するなどして集団感染防止に努めている。

## 令和元年度 子育て支援事業部門 事業報告

令和元年度も、子どもの幸せと健やかな発達の援助を行う事を最優先の使命とし、保育を行った。合わせて保護者支援、地域の子育て家庭への支援、働く職員の幸せの為に力を注いできた。

### 1. 令和元年度の重点的活動と成果

#### (1) 波除学園

- ①保育所型認定こども園として、新園長を迎えスタートした。しかし、年度途中で分園職員2名が職員間の問題から法人内異動、体調不良により新園長が半年で退職、本園職員1名が12月で退職と、人事において不安定な1年となった。
- ②昨年度の園庭改修に続き、今年度は2階の幼児手洗い場の取り換え工事を行った。蛇口も3か所から4か所に増え、混雑が解消された。今後も子どもたちの生活環境を整えていきたい。(別紙1)

#### (2) 安治川保育園

- ①昨年度の幼児トイレ改修工事に続き、今年度は本園乳児トイレの改修工事を行った。経年劣化による水漏れや使用できない便器などの不良個所が改善され、子ども達が安全で使いやすく、また楽しくトイレトレーニングができる環境が整った。(別紙1)
- ②後半期より月に一度、“あそび”をテーマにした『わくわくらんど』を開催。あそび担当の保育士が中心となり、いくつかのコーナーを準備し、子ども達が、自分で考え、自分で選んだコーナーでじっくり遊ぶ機会を設けた。子ども達一人ひとりが「またやりたい」「つぎはこうしてみたい」と主体的に感じる心を大切にすることができた。今年度も、『わくわくらんど』を継続し、子ども主体のあそびを展開していけるよう、環境構成を考え取り組んでいきたい。

#### ※2園共通(波除学園・安治川保育園)、

例年、波除小学校の第2グラウンドをお借りし、運動会を行ってきた。これまでも騒音に対する苦情はあったが、今年度は特に、近隣住民の一人が現場に現れ責任者を出すように求めたり、大阪市にクレームの電話をかけたという事が起こった。今回の件を受け、次年度の開催場所について検討が必要と考えている。

#### (3) 田中保育所

- ①自然との関わりを重点におき、飼育・菜園活動を中心にカブトムシ・蝶々など孵化に成功した。また、生き物の死の場面も目にするなど命の大切さに触れる機会を持つことができた。菜園活動では、季節に合った野菜や果物の水やりなどの世話を通して成長を観察できた。収穫した食材は厨房で調理し、自分たちで育てた作物を口にする経験するなど、主体的に取り組むことができた。
- ②支援に特化した保育所として運営を進めている。大阪発達総合療育センター『あさしお園』との交流で培った、障がい児対応の知識や正しい関わり方を、日常保育に組み込み対応する事もできた。

#### (4) アフタースクール KIDS

- ①KIDS なみよけ：開設5年目を迎え、令和元年度は32名でスタートし、安定した運営が出来るようになってきた。児童が協力して制作を行ったり、植物を育てたり、生き物の飼育に取り組むことが出来た。今後も波除学園、安治川保育園をはじめとした波除小学校に入学する児童の受け入れを行っていく。
- ②KIDS かわぐち：開設4年目を迎え、7つの小学校の新1年生～5年生28名でスタートした。途中、高学年児童の夏休み後の退所等があり、最終的には23名となった。近隣への周知は図れているが、校区外にも活動を広げ集客に努めたい。7校の児童が在籍しているので「KIDSで会える友達」をテーマに、絆が深められるよう協力して取り組む活動を行っていき、利用の継続を図っていききたい。
- ③KIDS いちもと：開設2年目を迎え、6つの小学校の新1年生～4年生20名でのスタートとなった。日々の活動内容も充実してきており、当番活動、日直活動にも積極的に取り組んでいる。校区外の小学校の児童が少ないので周知を図って受け入れを増やしていく。

#### (5) 藤白台育成室

吹田市より委託を受け2年目となり、今年度は新1年生が57名入室し、120名でのスタートとなるが、3年生、4年生になると塾や習い事での退室もあり、年度末には在籍数が102名となった。

1年生の在籍数が多かった為、色々な取り組み活動においても2年生以上の児童が1年生の面倒をみたりして、昨年度からの在室児童にとっても良い経験ができたと思う。来年度は退室率を下げることも含め、欠席しがちな児童のこまめなフォローも重視しながら取り組んでいきたい。令和2年度は1クラス増えて4クラス140名でのスタートとなる。

#### (6) 病児保育室

つどいの広場事業開設4年目を迎える。3年間の実績を踏まえ、年間の見通しを持てるようになったが2年目より若干利用者数が減少している。広報活動等を工夫し、必要な方々への周知や利用方法が行き届くよう努め、安定した運営を目指したい。

## 2. 保育内容（共通）

- (1) 『一斉保育』と『コーナー保育』のバランスのとれた保育を行い、協働と自主性を身につけられるよう保育を進めてきた。
- (2) 養護と教育が一体となった保育を展開した。保育目標に沿ったカリキュラムを作成し、子ども達のよりよい成長の為に五領域の観点から創意工夫した保育を展開してきた。また、例年通り、それぞれの園の伝統や特色を生かした行事に取り組んできた。

(年間行事報告 別紙2)

## 3. 保護者や地域の子育て支援

- (1) 港区役所、子育てプラザを中心に開催しているイベント“子育て広場ぴよぴよ”に深く参画している。今年で6年目を迎えるが、未就園児を中心に遊べるブースの提供や舞台での催し、園の情報提供などを行った。
- (2) 保護者の様々な家庭環境や就労状況に対処できるよう、長時間保育・延長保育・障がい児保育・一時保育・個別対応等を行った。

#### 4. 職員の専門的知識・技能の向上と育成

- (1) 看護や音楽・栄養などの専門的知識をもった職員の存在が園に厚みを持たせ、多角的に支援を行う事が出来た。又、それぞれの技能の向上にもなりお互いが良い刺激を受けて業務に役立てることが出来ている。支援の必要な子どもや、ご家庭については、状態により子ども相談センターや区役所と、公的専門機関との連携も行っている。
- (2) 職員育成とキャリアアップを目的にキャリアパス制度を導入している。職務要件の明記・自己評価・他者による人事評価、職員育成シートによる自己の評価と施設長の自己評価、セルフチェックシートによる本人や周囲のメンタルチェック（セクハラ・パワハラ防止）や、園児への適切な対応の確認（虐待防止）、またそれをもとに所属長との面談も行い、職場環境の適正化と職員育成を例年通り行った。更に、令和元年度は保育者ケア『キッズリー』の導入を行った。今後の職員ケアに役立てていきたい。
- (3) 能力と経験や立場に応じた内外の研修計画を立て、知識と技能を習得した。また、研修・ヒヤリハット・事故報告・保護者対応事例などを職員に周知し、皆が共有した情報や事例をそれぞれの持ち場での保育に生かす事が出来るようになってきた。  
(年間研修報告 別紙3)

#### 5. 施設運営について

- (1) 常に愛情ある保育と誠実な保護者対応、周辺地域への環境保全を心がけ、地域の評判を得ることにより、園児数や待機児童数の確保に努めた。
- (2) 園児数と待機児童数を把握し、計画的に園運営を行ってきたが、波除学園においては
  - ①認定こども園移行に伴い、本園0歳児の利用定員を面積基準に合わせ、17名から12名に変更
  - ②分園びよこじまの前期に0歳児の応募がなかったため、今後の分園閉園に向け後期の受け入れを中止
  - ③分園なみびよの園児数が大きく減少

上記の理由から年間で140名の利用者減となり、収益にも影響があった。  
(園児推移表 別紙4)

#### 6. 事業の展開

- (1) 波除学園は令和元年度より保育所型認定こども園としてスタートした。保育の現場では、新しく1号認定の子どもを2名受け入れたが、特に問題なく進めることが出来た。事務においては、契約書の締結、保育料の徴収等新しい業務が増え、最初は混乱する事が多かった。
- (2) 令和元年4月より、令和2年度の西保育園の移管開始に向け、引継ぎ共同保育を行った。施設長予定者と主任予定者から始まり、後半では異動職員・厨房職員共に保育内容、子ども・保護者対応、障がい児、アレルギー児、給食・食育など細部に渡り引き継ぎを行った。子どもたちだけでなく、保護者の方と良好な関係が築けるよう努めることができた。



# 令和元年度 高齢者事業部門 事業報告

## I 令和元年度の重点目標と成果

### 1. 責任と役割の明確化（職務分掌の確立）

現場業務に求められる職務分掌、役割はできているが、リーダーの行うべき役割分担や求められる能力については、日々の業務に流され、成果ある取組には至っておらず、改善を行う必要がある。今後の課題として、介護サービスの提供管理、スタッフのフォロー、ご利用者に関する情報収集など、役割を洗い出すところから進め、引き続き継続的に取組を行う。

### 2. 事業所の地盤固め

多様化するニーズやサービスの対応の為に、専門職としての対応を考え、資格を活かせる働き方など、キャリアパス制度の見直しを計画していたが、質を高めるための研修制度の見直しなどを再考し始めたところに留まった。また、それらの一環として、7月に実施したCUBIC個人特性分析を活用し、11月より各事業所のリーダーを対象にした人材育成の研修を実施した。新型コロナウイルスの影響で、最終研修は延期している状態であるが、研修を通じて自らの考え方の傾向を知ること、自分自身や周りの職員の特性を理解し、人間関係を円滑にすることでリーダーシップが発揮できるよう学んだ。今後、それぞれのリーダーが現場に活かせるよう努めていきたい。

### 3. 人材の獲得と働きやすい職場作り

部署ごとに人手不足の問題は様々であるが、特に特殊な雇用形態である登録ヘルパーの確保が難しく、常に募集広告を出しているが応募が来ない状態である。介護員養成講座からのスタッフ確保も出来ていないため、講座の一時中止をすることとした。次年度は、事業運営の継続に必要な人材確保や変革する働き方改革の対応も踏まえ、全スタッフへの職場内アンケートを実施し、スタッフ個々の意見や思いを反映できる仕組み作りを実施したいと考えている。

## II 実績報告及び事業活動状況

### 1. ケアハウスなみよけ

	ご入居者数 (目標：30名)	世帯数 (目標：27世帯)	当月稼働率 (目標：100%)	面接済み待機者 (目標：年間10名)
第1四半期	29名	27世帯	96.7%	4.0名
第2四半期	29名	27世帯	96.7%	4.6名
第3四半期	29名	27世帯	96.7%	7.3名
第4四半期	29名	27世帯	96.7%	9.3名
令和元年度 平均/月	29名	27世帯	96.7%	6.3名
前年度 平均/月	29名	27世帯	96.7%	3.32名

#### (1) 実績の分析

稼働率に関しては、2人部屋にお一人でご入居されている方がおられるため、100%には至っていない。ただし、ケアハウスへのお問合せは途切れることなくあり、出来る限り迅速に面接を行いたい。3月末現在10名の待機者がおられる状況である。

## (2) 取組の内容と評価

### ①介護保険サービスご利用状況

ご入居者の要支援、要介護者の割合は若干増えた。ご希望に応じ、当居宅介護支援事業所への紹介を行い、生活の中で生じる支障や支援の必要性などの相談に都度対応した。

現在の介護保険サービス等の利用状況は下記のとおり（R2.3月末日現在）

支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
2名	5名	6名	10名	2名	0名	0名	25名

デイサービスご利用者数	13名(8名)
ヘルパーサービスご利用者数	15名(12名)

( )内は当法人のサービス利用者数

## 2. 総合相談窓口

	総合相談実件数 (目標：月10名)	総合相談延件数 (目標：月50件)
第1四半期	69名	379件
第2四半期	62名	438件
第3四半期	79名	479件
第4四半期	78名	327件
令和元年度 累計	288名	1,623件
前年度 累計	290名	1,029件
令和元年度 平均/月	24.00名	135.25件
前年度 平均/月	24.16名	85.75件

### (1) 実績の分析

行政が掲げる相談実件数と相談延件数は目標を達成することができた。

相談実件数は昨年度対比で2名減となったが、相談延件数は594件増となっている。認知症に関する相談や虐待に対する相談があり、ご利用者1人に係る相談が多くなっている。

### (2) 取組の内容と評価

#### ①認知症に関する取組

介護予防の推進として、サロン活動「わくわくタイムなみよけ」、「いきいき百歳体操」を定期的実施。サロンは概ね25名ほど、百歳体操は20名の参加者がおり、地域の方の健康増進の一助として定着している。然しながら、このような地域活動に参加されない、興味がない独居の方も多くおられる現状もあるため、引き続き社会とのつながりを持てるよう支援を続ける。

新型コロナウイルスの影響で、サロン活動、いきいき百歳体操は2月末より中断となっているが、地域の独居高齢者への支援活動と併せて、自宅で出来る健康維持に関するチラシを作成、ポスティングし、地域の方々からの反応が出始めた。

## ②相談支援体制

年度途中より職員体制を、2名（内1名は居宅介護支援事業のケアマネジャーと兼務）から、専従1名に変更し、相談支援体制の見直しを実施した。専従の1名は一昨年途中からの入職であったが、連携機関との関係も築くことができ始め、相談件数実績に反映されているとおり、地域との繋がりが持てるようになった。

## 3. 居宅介護支援事業所

	作成数（介護） （目標：165名）	作成数（予防） （目標：66名）	平均担当者数 （一人当たり） 予防は1/2換算	稼働率
第1四半期 （人員5.5名）	466名	174名	33.45名	92.9%
第2四半期 （人員5.5名）	464名	184名	33.69名	93.5%
第3四半期 （人員5.5名）	465名	192名	34.00名	94.4%
第4四半期 （人員5.5名）	509名	188名	36.54名	101.5%
令和元年度 累計	1,904名	738名	189.41名	95.6%
前年度 累計	1,810名	704名	180.16名	78.9%
令和元年度 平均/月	158.66名	61.5名	34.43名	95.6%
前年度 平均/月	150.83名	58.6名	30.68名	78.9%

### （1）実績の分析

令和元年度は人員体制も定着し、6名体制で（人員換算5.5名）運営をすることができた。新規ご利用者も徐々に増加してきており、第4四半期の一人当たりの担当者数実績が目標としていた36名を月平均で超え始めた。令和2年度は6名とも専従（人員換算6.0名）とし、更なる新規獲得に努めたい。

### （2）取組の内容と評価

#### ①法令順守に則ったケアプランの作成

職員相互間でのケアプランチェックを年2回以上の実施は継続しており、回数を重ねるごとに精度も高くなっている。特定事業所加算の算定要件ともなっている外部法人も事業所との事例検討も、法人横断会議や港区内の他法人とも実施し、お互いのプランのスキルアップに繋がっている。

#### ②暫定プランへの対応

年度途中からの、介護区分変更中の方の介護認定の遅れが多く、余分な事務量が増加し、暫定プランの作成に追われた。国保連合会への請求業務に漏れないよう、注意していく。また、新型コロナウイルス感染症に伴うサービス調整も、ご利用者のニーズに沿って実施するようにしている。

#### 4. デイサービスセンターさくら

	一日の平均稼働率 (目標: 80%)	平均実登録者数 (目標: 月 110 名)	延べ利用者数 (目標: 920 名)	稼働日数
第 1 四半期	69.9%	323 名	2,498 名	78 日
第 2 四半期	74.1%	312 名	2,687 名	79 日
第 3 四半期	71.8%	293 名	2,546 名	78 日
第 4 四半期	72.8%	310 名	2,507 名	75 日
令和元年度 累計	72.15%	1,238 名	10,238 名	310 日
前年度 累計	74.2%	1,234 名	10,401 名	306 日
令和元年度 平均/月	72.15%	103.1 名	853.16 名	25.83 日
前年度 平均/月	74.2%	102.8 名	866.75 名	25.5 日

##### (1) 実績の分析

令和元年度は、入院に伴う長期中断者や急なキャンセルが目立ち、目標 80% を達成することができなかった。新規のご利用者は毎月 4～6 名ほどいるものの、入院や利用終了の方がそれを上回る現状があり、年間の実利用者数は前年度対比で 4 名増、延利用者数は 163 名減なった。法人の居宅介護支援事業所だけでなく、近隣の他居宅介護支援事業所に出向き、ケアマネジャーとの顔の見える関係づくりを進めてきた結果、他事業所からの紹介は増加した。

##### (2) 取組の内容と評価

###### ① ケアマネジャーへの継続的な訪問

実績報告での定期的な訪問以外に、時間を見つけてはケアマネジャーの居る居宅介護支援事業所に出向く機会を作り、顔の見える関係づくりを行った。その結果、近隣病院のケアマネジャーからの相談や依頼が増え、胃ろう対応の必要な重度者の依頼があった。受入れを行なうために、看護師を始めスタッフの見守り意識を強化し、サービスの実施に努めた。

###### ② 人材の育成と研修制度の再考

上記①に上げているように、重度者の利用があったことを受け、スタッフの危機意識が高められるよう、KYT トレーニングを取り入れたリスクマネジメントなどの研修を行い、より現場に即した内容の研修を取り入れた。今後の課題としては、介護技術の向上や救急時の対応など、現場で必要な技術向上に向けた研修制度を再考し、人材の育成を進めていく。

#### 5. ホームヘルプセンターさくら

	派遣時間合計 (総合事業) 目標 月 1,050 時間	派遣回数 目標 1,200 回	登録者数 目標 月 130 名	実利用者数 目標 月 115 名	ヘルパー数 (登録ヘルパー)	稼働日数
第 1 四半期	2,774 時間 (459 時間)	2,904 回	394 名	310 名	69 名 (48 名)	78 日

第2四半期	2,908 時間 (472 時間)	3,077 回	409 名	322 名	70 名 (48 名)	79 日
第3四半期	2,951 時間 (386 時間)	3,181 回	399 名	322 名	72 名 (48 名)	78 日
第4四半期	2,971 時間 (327 時間)	3,146 回	388 名	325 名	72 名 (50 名)	75 日
令和元年度 累計	11,604 時間 (1644 時間)	12,308 回	1,593 名	1,279 名	283 名 (194 名)	310 日
前年度 累計	12,600 時間 (2064 時間)	13,741 回	1,578 名	1,321 名	319 名 (221 名)	309 日
令和元年度 平均/月	967 時間 (137 時間)	1,026 回	132.7 名	106.5 名	23.58 名 (16.1 名)	25.8 日
前年度 平均/月	1,050 時間 (172 時間)	1,145 回	131.5 名	110 名	26.58 名 (18.4 名)	25.7 日

### (1) 実績の分析

一月当たりの稼働時間の平均が967時間となり、目標の1,050時間を下回り、達成することができなかった。実ご利用者は前年度に比べ15名増で、大幅な増加とはなっていない。主な要因としては、働き手であるヘルパーが減少し、稼働時間を延ばすことができなかった。体制の見直しが課題であり、加えて、働き手の確保のバランスを考えながら、ご利用者の新規獲得に努めたい。

### (2) 取組の内容と評価

#### ① 実地指導への対応

令和元年10月23日に9年ぶりの実地指導があり、大きな指摘事項なく終了した。実地指導に向けて、サービス提供責任者を中心に書類の整理やチェックを実施した結果が成果に現れたことによって、職員たちの自信に繋がった。

#### ② 研修制度の再考

登録ヘルパーに向けた内部研修に係るアンケートを実施し、希望のあったものから直ぐに実行可能なものを計画し、それらを実行することによりヘルパーの質を高める取組みを行った。今後も、各ヘルパーのモチベーションがあがる研修を企画し実施してゆく。